



1年生のみなさん、改めて、紙上では、はじめまして。

この校長通信は、皆さんの学校での生活の様子を通して、私が感じたことや思ったこと、保護者の皆さんにも一緒に感じたり、考えて欲しいことがあったりしたときに、思いつくまま、気の向くまま不定期に発行しています。

授業などで皆さんといろいろなお話ができる先生方と違って、なかなかゆっくりとお話する機会がありませんので、よろしければ、時々、お付き合いください。

部活動紹介から感じたこと

下関北高校の1期生を迎え、新年度が始まりました。
そのトップを飾る記事は？始業式？開校式？対面式？
離任式？

トップニュースにあげるのは、「部活動紹介」

生徒会執行部田村君、月岡君の軽妙な進行とそれぞれの部活動の発表者の工夫で、和やかで、笑いもおこる楽しい時間でした。中でも野球部の紹介はユニーク

で、驚きましたね。まさか、あそこで、3学期実施したAED講習会の成果が発揮されるとは・・・。
構成、展開に意表をつかれ、みなさんの、高校生の発想力、創造力に感心させられました。

どの部も1年生を楽しませよう、明るい豊北高校の雰囲気伝えようという意味を感じて、とても嬉しく思いました。

特に印象に残ったのが、響高校の相撲部の部活動紹介です。わざわざ、響高校から来てくださった相撲部の皆さんを温かい拍手で迎え、まわし姿で相撲の練習の様子を紹介する姿を食い入るようにみつめ、何度も拍手を送る北高の生徒は、とても素晴らしいものでした。

練習や大会でいつも着け慣れているまわし姿とはいえ、その姿で同じ年代の仲間達の前に立つのは、彼らにとっても勇気が必要なことだったのかもしれない。

その姿を目にして、「自分だったとしたら、少し恥ずかしくてできないな」とか、そんな感情が芽生えるのも当然です。そんな立ち位置に自分自身を置き換えてみたからこそ、彼らの勇気、本気さ、真剣さ、相撲にかける覚悟がより伝わり、私も自然と拍手を送っていました。

皆さんが送った拍手もきっと同じ質のものだったと思います。

人は、自分の世界の中には無いものと出会ったとき、好奇心目でみてしまったり、精神的に成長し切れてない人の場合は冷やかしたりしがちなものです。そんな空気を微塵も感じさせない、その場の雰囲気、それを作り上げた響高校の相撲部の生徒に心から感謝です。

○私たちは、どれだけ、真剣さ・本気を伝えられただろうか？

もう一步、踏み込んで考えてみましょう。

“本気”な相撲部の生徒。そんな目で、もう一度、私たちの部活動紹介を振り返ってみましょう。果たして、私たちは、どれくらい、真剣さを伝えられたのでしょうか。

明るく楽しい部活動の様子を紹介することも大切なことです。そして、事実、皆さんも真



剣に部活動紹介に取り組んでくれました。

しかし、皆さんが、日頃、真剣に取り組んでいる部活動の様子を、熱意を、どれくらい伝えることができたでしょうか。それぞれの部活動の目標、日頃の練習メニュー、仲間の様子、伝えるべきこと、伝えたいことは、たくさんあったはずですよ。

かく言う私のこと。そういう時代だったのか、そういう世代なのか、そういう年代なのか、それとも私自身がひねくれていたのか。私が高校生活を送っていた頃は、なんだか、一生懸命取り組む姿、真剣さを表に出すことは格好悪く、ダサく、おしゃれではない、ちょっと冷めた仕草の方が格好いいような、そんな空気がながれていたように思います。

そんな空気の中で青年期を送ってきた私自身、どこかに、“面白さ”でごまかす、“面白さ”に逃げる面がある。そんな自分自身を振り返るきっかけにもなりました。

大きな1日でした。

見よ！北高の先輩の活躍を。(DeNA 平田真吾選手)

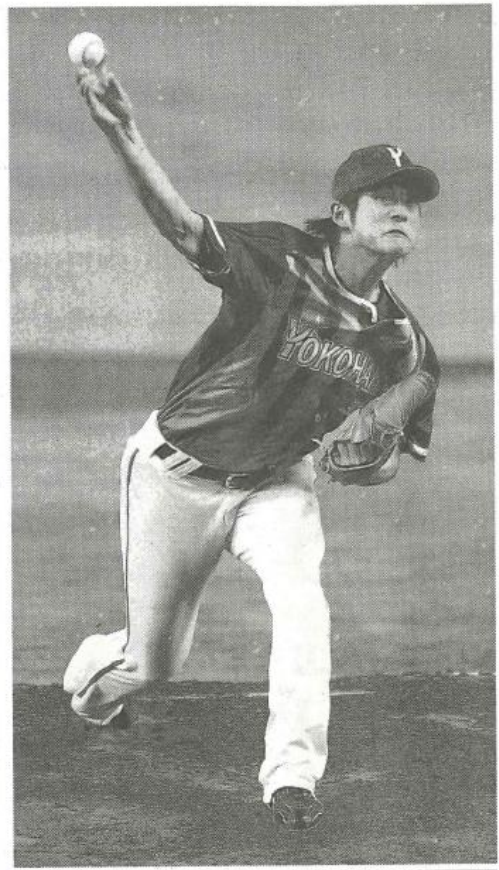
平田(下出身)気迫、5回無失点

DeNA 2軍戦でも経験のない先発マウンドを託されたDeNAの平田が気迫の投球で応えた。巨人打線を相手に5回無失点の好投。リリーフが打たれてプロ初白星こそ逃したが、降板後は普段の柔和な表情に戻り「最低限、役割を果たすことができたと思う」とほのかんだ。

5年目でプロ初先発

打ち取って気持ちが楽になったとカーフやフットボールなど多彩な球種を交えて組み立てた。下関市出身で豊北高から北九州市立大、ホンダ熊本を経て入団して5年目。昨季までの通算74試合は全て救援登板で、今季の2軍でも4イニングが最長。チームは今季も昨季の桁勝利した3人が故障中の非常事態とはいえ、アマ以来となる先発は、全て予感すらない。びっくりしたと本人も驚く指をたたく。

筒香3号2ラン DeNAの筒香が3号2ランを放った。0-0の6回2死一塁から吉川光の真ん中高めに入った直球を逃さず、コンパクトに振り抜いて左翼席へ運んだ。平田がプロ初先発だっただけに「平田さんが頑張っていたので何とか点を取りたい」と思っていたところなすいた。昨季は開幕から21試合本塁打が出なかったが、今季は順調だ。ラミレス監督が「今年は爆発的な成績を残す」と太鼓判を押す通りの好調さを見せている。



(4月12日(木) 山口新聞)

実際に、お会いしたことはありませんので、私の想像ですが、野球のための特別な教育を受けたわけではなく、ただ野球好きな田舎の子が、普通の高校で野球やって、地方の公立大学に入って、**与えられた環境の中で、一生懸命取り組んで**、その中でチャンスを手にしたとしたら、こんな夢のある素敵な話はないと思いませんか？

どこにでも、可能性とチャンスは転がってるということの証じゃないかな。